

SYDかわらばん

〈最新活動情報 No.144〉 2020年10月20日号

～歴史探訪～ラジオ体操と修養団

昭和39年10月10日、第18回夏季オリンピック大会が東京都で開催しました。本年開催予定のオリンピックは明年に延期されましたが、スポーツや健康はいつの時代も大きな関心事と言えます。

その中でラジオ体操は、「国民の体力向上と健康の保持や増進」に貢献してきましたが、そのルーツの一端は修養団にあるのです。

松元稲穂と国民体操



松元稲穂(明治16年～昭和27年)は、鹿児島師範を卒業後、明治40年に日本体育会体操学校(日本体育大学の前身)に入学。香川県女子師範学校教諭時代、同校教諭であった後藤藤香(修養団幹事長)の協力を得て、大正6年に「家庭体操」を創案。

同8年におこなわれた、修養団主催「第5回全国中堅青年天幕講習会」に講師として参加し家庭体操を実施、その際「国民体操」と改名した。

国民体操は永井道明・東京高等師範学校教授の「家庭體操」ほか、デンマークやドイツの体操、また陸軍戸山学校の10分間体操などをヒントに作られた。

その目的として、松元は「向上」大正9年3月号において以下のようにまとめている。

①「我が国民健康状態の改造」

健康状態の改造には「国民の体育を根底から改造せねばならぬ」とし、医学の進歩や衛生状態の改善に先んじて「呼吸器と消化器の強健」を主眼とした。

当時の平均寿命は31歳とされ、呼吸器と消化器の疾患で1日に1300人が亡くなっており、死亡者全体の半数を占めていたことを鑑み「一刻と斃れて行く我が同胞を見棄てること出来るか」と述べている。

②「国民能率の向上」

健康の増進とともに、活動の基礎を確立するために、毎朝日の出とともにこの体操を実行して、その日の活動に邁進することを推奨している。また、仕事や勉強の間に体操をおこなうことで疲労が回復し、また新しい気分で働くことができるとし、「国民の総能率が向上すれば、国運の隆盛も期待できる」としている。

国民体操は修養団主催の講習会で実施されたことで全国に普及し、大正9年の「第8回全国中堅青年天幕講習会」では、当時の皇太子殿下(昭和天皇)にご覧いただく光栄を受けた。



松元は教諭を辞して修養団幹事(大正9～12年)、同理事(大正12～14年)を歴任するとともに、「国民体操研究所」を設立した。

なお、修養団の講習会では現在も国民体操の一部を取り入れ、ヨイサ！ヨイサ！のかけ声とともに、「天突き体操」「櫓こぎ運動」を元気におこなっている。

ラジオ体操の参画へ

大正時代、通信省(現・総務省)では国営の保険事業を始めるため、世界の保険事情を視察していた。同12年、視察中の簡易保険局職員が、アメリカの保険会社が「ラジオ体操」を企画していることを知り、当時日本でラジオが急速に普及していることも重なり、大正14年に業界誌でその企画を紹介し、昭和2年、昭和天皇の即位を祝う事業としてラジオ体操を提案。その後、文部省(現・文部科学省)や師範学校、東京市(当時)などのメンバー7人が選定され、体操の草案

が検討されたが、その際に松元が委員に名を連ねている。

昭和3年、「国民保険体操」として発表されたラジオ体操は、戦争で中止を余儀なくされるなどしたが、昭和26年に現在の形となり、愛好者は全国のみならず海外にも及んでいる。



主催事業・活動等

報告

10/9…第2回「オンライン青年ボランティア・ゼミナール」34人

岐阜県の中川耕一朗さん(ナチュラルクリニック21勤務)が「こうやって僕は大人になった」と題し、自身が体験した不登校やNPOでの体験のほか、現在のライターとしての活動について講話した。

また、勤務している「ステロイドを使わないアトピー性皮膚炎の専門クリニック」での受付対応を通して、「社会貢献はボランティアだけでなく、自分の仕事を通してでもできる」ことを参加者に訴えた。

参加者はパソコンやスマートフォンの画面を通して真剣に耳を傾けるとともに、講演終了後は講師を交えて交流を図った。



【幸せの種まきキャンペーン《出前講座》】

《山口千恵子、谷野渉、増田航介》

報告

10/ 2	和歌山県高野町高野山中学校	45人
10/ 6	北海道伊達市立光陵中学校	290人
10/ 7	北海道鶴川高等学校	202人
10/19	沖縄県立球陽中学校	84人

予定

10/21	沖縄県那覇市立真和志中学校
10/27	静岡県私立浜松聖星高等学校
11/ 5	神奈川県私立カリタス女子中学校

予定

11/7…「Zoomでオンライン家庭《共育》講演会」〔東京都・SYD本部〕

《高牧康》

ヴォイスティーチャーの高牧康さんが「音育」と題して講演。「家庭《共育》セミナー」のオンライン版として実施する。



左記QRコードからも申し込み可能。

11/14…「幸せの種まき祭り」〔東京都渋谷区・SYDホールほか〕

11/21～23…「全国青年ボランティア・フォーラム」

〔長野県伊那市・国立信州高遠青少年自然の家〕《Daisuke Katsumata、山崎一紀、山口千恵子、市島寿里、板倉和也、谷野渉、増田航介》

「君の代わりはいない～生きるって何だろう？～」をテーマに、参加青年がボランティアや生徒会などでの活動を通じ、学んだことや熱意を語り合うとともに、新たな取り組みやよりよい活動を模索する。

11/29…「Zoomでオンライン愛汗実践塾」〔東京都・SYD本部〕

《山崎一紀》

修養団創業者・蓮沼門三の没後40年に寄せ、山崎一紀主幹が講演。

〈発行・連絡先〉

SYD(公益財団法人修養団) 社会教育部
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2
☎03(3405)5441 FAX03(3405)5424
E-mail : info@syd.or.jp
ホームページ : https://syd.or.jp/

SYD

検索